

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝⑨医学一般＝（問題 57～問題 68）

（2007 年 5 月 21 日ホームページ掲載）

【医学一般】

問題57 医療及び介護における資格と業務に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 医師でなければ、医業をしてはならない。
- B. 看護師は、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行う。
- C. 介護福祉士が介護を行う際、医師の指示を必要とする。
- D. 理学療法士は、医師の指示の下に理学療法を行う。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	○	×	×

問題 57: 正答 1○○×○

- A. ○「医師でなければ、医業をなしてはならない。」と規定されている。（医師法第 17 条）
- B. ○「看護師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」と規定されている。（保健師助産師看護師法第 5 条）
- C. ×介護を行う際には「医師の指示」は必要ではない。しかし、「介護福祉士は、その業務を行うに当たっては、医師その他の医療関係者との連携を保たなければならない。」と規定されている（社会福祉士及び介護福祉士第 47 条）。
- D. ○「理学療法士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、理学療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、理学療法を行なうことを業とする者をいう。」と規定されている。（理学療法士及び作業療法士法第 2 条第 3 項）

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題58 「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」における成人男性の1日当たりの目

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

標値として、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 食塩摂取量15g以下
- B. 脂肪エネルギー比率25%以下
- C. 野菜の摂取量350g以上
- D. 日常生活における歩数5,000歩以上

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 58 正答 3×〇〇×

●「健康日本 21」の目標値

(1) 栄養状態、栄養素(食物)摂取レベル

- ①適正体重を維持する者の割合の増加・・・目標値：20～60 歳代男性 15%以下, 40～60 歳代女性 20%以下
- ②20～40 歳代の 1 日あたりの平均脂肪エネルギー比率の減少・・・目標値：25%以下
- ③成人の 1 日あたりの平均食塩摂取量の減少・・・目標値：10g 未満
- ④成人の 1 日あたりの野菜の平均摂取量の増加・・・目標値：350g 以上
- ⑤カルシウムに富む食品(牛乳・乳製品, 豆類、緑黄色野菜)の成人の 1 日あたりの平均摂取量の増加・・・目標値：牛乳・乳製品 130g, 豆類 100g, 緑黄色野菜 120g 以上

(2) 知識・態度・行動レベル

- ①自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践する者の割合の増加(適正体重:「[身長(m)]² × 22」を標準, BMI=22 を標準とする)・・・目標値:90%以上
- ②朝食の欠食率の減少・・・目標値:20, 30 歳代男性 15%以下, 中学・高校生でなくす
- ③量、質ともにきちんとした食事をする者の割合を増加・・・目標値：70%以上
- ④外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする者の割合の増加・・・目標値なし
- ⑤自分の適正体重を維持することのできる食事量を理解している者の割合の増加・・・目標値：80%以上
- ⑥自分の食生活に問題があると思う者のうち、改善意欲のある者の割合の増加・・・目標値：80%以上

(3) 環境レベル

- ①職域等における給食施設, レストラン, 食品売場において、ヘルシーメニューの提供比率を上げ、そ

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

の利用者を増加・・・目標値なし

②地域、職域で、健康や栄養に関する学習の場を提供する機会を増やし、それに参加する者(特に、若年層)を増加・・・目標値なし

③地域、職域で、健康や栄養に関する学習や活動を進める自主グループの増加・・・目標値なし

A.×食塩摂取量の目標値は「15g 以下」ではなく「10g 未満」である。基準値は 13.5g(1997 年国民栄養調査)である。

B.○脂肪エネルギー比率の目標値は 25%以下である。基準値は 27.1%(1997 年国民栄養調査)である。

C.○野菜の摂取量の目標値は 350g 以上である。基準値は 292g(1997 年国民栄養調査)である。

D.×「日常生活における歩数 5,000 歩以上」という項目は存在しない。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題59 人体の器官・組織とその機能に関する次の組み合わせのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 下垂体・・・・・・ホルモン分泌
2. 蝸牛・・・・・・聴覚
3. ヒス束・・・・・・心臓の刺激伝導
4. 胸腺・・・・・・免疫反応
5. 門脈・・・・・・リンパ液の運搬

問題 59: 正答 5○0○0○0×

1.○脳下垂体(下垂体)とは、視床下部の真下にある器官で、数多くのホルモンを分泌する重要な臓器である。前葉と後葉とに分けられ、前葉からは卵胞刺激ホルモン、黄体化ホルモン、甲状腺刺激ホルモン、副腎皮質刺激ホルモン、成長ホルモン、乳汁産生ホルモンが分泌され、後葉からは抗利尿ホルモンやオキシトシンが分泌される。

2.○内耳は聴覚をつかさどる蝸牛と、平衡感覚をつかさどる前庭(卵形嚢・球形嚢・三半規管)からできている。

3.○心臓の刺激伝導路では、①洞結節→②房室結節→③ヒス束→④左・右の脚→⑤プルキンエ線維、へと細分化され両心室へと伝わり収縮させる。

4.○胸腺とは胸骨の下にある小さな臓器で、胎児から幼児にかけては身体の免疫系の発達に重要な役割を果たす器官で、成人以降は退化してほとんど脂肪に変化して、CT 上もほとんど認識されなくなる。

5.×「門脈」とは消化管と肝臓を結ぶ血管であり、正常な場合には、腸管から門脈を通して血液が肝臓に流れ、有害物質(アンモニアなど)を無毒化してから心臓を通して全身に血液が送られる。「リンパ管」は、老廃物などをろ過するポイントである「リンパ節」を経由しながら、リンパ液を運搬する。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題60 高齢者の身体的特徴に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 味覚が低下する。
2. 高音域が聞き取りにくくなる。
3. 唾液の分泌が多くなる。
4. インスリンの分泌が少なくなる。
5. 夜間の排尿回数が増える。

問題 60: 正答 3〇〇×〇〇

- 1.〇高齢者は、すべての味覚が低下するが、とくに塩味、甘味がもっとも衰えるといわれ、次第に濃い味付けを好むようになり、濃い味のものでないと食べた気がしないため、薄味のおいしさがわかりにくくなる。塩分の過剰摂取は、高血圧の原因になり、脳卒中や心臓病に深く関係する。
- 2.〇高齢者は、一般的に加齢による聴覚機能の低下が見られ、その一つの現象として、高音域の聴力が低下する。
- 3.×「多くなる」のではなく「少なくなる」である。高齢者は、唾液の分泌が低下し、口の中が乾いた状態になり、食道の粘膜から分泌される粘液も少なくなるため、食べ物を飲み込む力が低下する。そのため、飲み込めなかった食べ物が口の中に残っていたり、飲み込んでも、反射機能や筋肉の衰えにより食べ物が食道内でつかえやすくなる。食べ物がうまく飲み込めずにむせるという状態を嚥下障害という。
- 4.〇高齢者は、加齢とともにインスリンの分泌が減少し、糖を代謝する機能の低下により糖尿病の状態になりやすい。
- 5.〇高齢者は、夜間に作られる尿の量が増えてくることが知られており、夜間尿量が増えると夜間の排尿回数が増える。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題61 次のうち、長期臥床により生ずる病状として、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 沈下性肺炎
2. 静脈血栓症
3. 高血圧症
4. 関節拘縮
5. 褥瘡

問題 61: 正答 3〇〇×〇〇

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

1.○仰臥位の姿勢が長くなると血液が重力で鬱滞し、細菌が繁殖しやすい条件となり、沈下性肺炎を発症する。肺炎はその原因により、細菌性肺炎・マイコプラズマ肺炎、ウイルス性肺炎、真菌性肺炎などに分類され、また病変の広がりで大葉性肺炎、気管支肺炎(小葉性)に分けられる。さらに、特殊な状態のとき起こるものとしては、術後肺炎、嚥下性肺炎、長期臥床者にみられる沈下性肺炎、終末期肺炎などがある。

2.○深部静脈血栓症は、主に下肢の大腿や骨盤内の静脈が炎症を起こして血管に血栓をきたすものである。手術後や脳卒中後の長期臥床によるものが実際には多い。最近話題になっている「エコノミークラス症候群」は、飛行機や自動車、災害避難所などの狭い場所に長時間押し込められたことによる下肢の静脈うっ血が原因で深部静脈血栓症を起こし、肺塞栓を合併して呼吸困難、ショック状態に陥るものである。

3.×高血圧症と長期臥床との直接の関連はない。高血圧はその95%以上が原因不明で、「本態性高血圧」と呼ばれる。多くは遺伝的な素因と塩分や脂質の過剰摂取、運動不足、肥満、ストレス、喫煙、アルコールなどの生活習慣の不摂生などが関与しているといわれる。一方、検査により明らかな原因が見つかる高血圧もあり、腎臓病や内分泌の病気などが関係し、「二次性高血圧」と呼ばれ、本態性高血圧とは異なり手術などの治療により治癒させることもできる。

4.○関節拘縮は、長期臥床やギプス固定後などにしばしば認められる二次的障害であり、これは不活動によって骨格筋の伸張性・柔軟性が低下したことがその要因の一つとされている。

5.○褥瘡は、長期臥床している栄養状態が不良な高齢者などに発生する皮膚の潰瘍である。日本の要介護高齢者は痩せて骨が極端に突き出た体型が非常に多い。骨突出が顕著になると圧力が集中して褥瘡をつくる原因となり、圧迫が長時間続くと皮膚は壊死に至る。同一の箇所に2時間持続的に圧迫すると褥瘡が発生するといわれている。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題62 MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. MRSA 感染症は、基礎疾患のある者に発症することが多い。
- B. 病原性は非常に強い。
- C. 院内感染の原因菌となる。
- D. 接触感染することが多い。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | × | ○ | × | × |

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

4 × × ○ ○

5 × × × ○

問題 62: 正答 2○×○○

●黄色ブドウ球菌は非常にありふれた菌で、髪の毛や皮膚、鼻の粘膜、口腔内、傷口などによく付着している。黄色ブドウ球菌は、基本的に弱毒菌のため、抵抗力のある健康な人に対しては保菌状態にはなっても、とくに重症化することはない。抵抗力の弱い基礎疾患を持つ人、高齢者、新生児などは感染しやすい。重症化するのは、①無菌室が必要になるくらい抵抗力が低下した場合、②大手術の後、③重症の熱傷を負った場合、④血管内にカテーテルを長時間入れている場合、などで、重症化すると、敗血症、髄膜炎、心内膜炎、髄炎などにより死亡に至ることも少なくない。代表的な治療薬はバンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシンで、2006 年 4 月にはリネゾリドが新薬として承認された。

A.○上記の解説を参照のこと。

B.×上記の解説を参照のこと。

C.○医療従事者の手指や医療器具を介して院内感染の原因になりやすい。院内感染というのは市中感染に対応する言葉である。

D.○。院内で感染者が判明した場合、感染者の治療とともに感染を広げないことも重要であり、適切な感染管理が必要となる。MRSA の場合、接触感染予防策が適用される。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 63 次のうち、感染が原因で起きる皮膚疾患として、誤っているものを選びなさい。

1. 帯状疱疹
2. 疥癬
3. 白癬
4. 皮膚カンジダ症
5. アトピー性皮膚炎

問題 63: 正答 5○○○○×

1.○帯状疱疹は、子供の時にかかった水ぼうそう(水痘)の原因ウイルスが神経の中に潜んでいて、何年かたってから何かのきっかけで再び表に現れてくると起こる感染症である。疲れたり、体の抵抗力が落ちているときに発症し、帯状疱疹にかかると痛みと小さな水ぶくれが現れる。

2.○疥癬は、大きさ 0.2~0.4mmの疥癬虫(ヒゼンダニ)がヒトの皮膚内に寄生することによって起こる病気である。通常、疥癬は密なヒトとヒトの接触により感染する。

3.○老人によく見られるのが皮膚真菌症で、カビの一種である真菌が体に寄生して起こる病気、白癬症と皮膚カンジダ症がその代表である。主として足に感染して起こる白癬を「水虫」、外陰部に感染したものを「いんきんたむし」、手足以外の胴体、腕などに感染したものを「たむし」や「ぜにたむし」と呼

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

ぶ。白癬症は患部を清潔にしてから外用薬を塗り、一見治ったようにみえても角質層内に菌が隠れていることが大半なので、少なくとも半年は薬を塗り続ける必要がある。

4.○皮膚カンジダ症とは、カンジダ菌に感染して皮膚が炎症を起こす病気である。カンジダ菌は、人の口、胃腸、皮膚の表面に常にいる菌で、体や皮膚の抵抗力が落ちたときに増殖し、炎症をおこす。カンジダという真菌は、ジメジメした湿った場所を好み、指の間、脇の下、乳房の下、陰部などによく発生し、寝たきりの高齢者の場合には、おむつをはめている部分の皮膚炎に併発することが多い。カンジダ症も患部を清潔にしてから、外用薬を塗る。3の解説を参照のこと。

5.×アトピー性皮膚炎は、遺伝的な素因をもとに、慢性的に湿疹病変を繰り返す皮膚の病気で、感染が原因となるものではない。カサカサと乾燥した皮膚にも特徴があり、発症の原因や治療法などに個人差が激しいため、慢性化した場合は、専門医と相談しつつ、根気よく各人に合う治療法を探っていくことが重要であるといわれている。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題64 脳梗塞に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 大脳半球に生じた脳梗塞による上下肢の麻痺は、病巣と同じ側に生じる。
- B. 右利きの人では、失語症の病巣は左側にある。
- C. 発症直後から麻痺した上下肢の関節に強い拘縮が見られる。
- D. 心房細動が原因の一つとなる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 64: 正答 4×○×○

●脳梗塞は、梗塞の起こり方から、①動脈硬化による脳血栓と脳以外の主に心臓でできた血栓による脳塞栓に分けられる。脳梗塞は突然に起こり、脳血栓では一日のうちいつでも発症し、突然手足に力が入らなくなり、少しずつ麻痺が進むという発症の仕方が比較的多く見られ、②脳塞栓では、心臓で出来た血栓が流れてきて脳動脈を塞ぐので、突然に、重症で発症する場合が多く、塞栓が起きる時に心臓が非常に早く脈打つ「心房細動」という状態になっていることがよくある。

A. ×「同じ側」ではなく「反対側」である。①中大脳動脈の梗塞: 最も多く脳梗塞の 60%～70%がこの場

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

所で発生し、詰まった動脈がある反対側の片麻痺(特に上肢)や知覚麻痺、視力障害などが起こり、右の動脈が詰まれば、左の片麻痺がでる、②前大脳動脈の梗塞:脳梗塞の 5%前後がこの血管で発生し、詰まった血管の反対側の片麻痺(特に下肢)、下肢の感覚障害、尿失禁、知能低下などが現れる。

B.○大部分の人の言葉を話したり理解する言語半球は左にあるため、左の中大脳動脈が詰まると右片麻痺だけでなく、言葉を話せなくなったり、聴いても理解できなくなる失語という症状が現れる。

C.×「発症直後には強い拘縮」は見られず、脳梗塞後の長期臥床により関節拘縮(廃用症候群)が起こる。そのため、脳梗塞の発作後できるだけ早い時期から集中的なリハビリテーションが進められる。

D.○上記の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題65 がんに関する次の記述のうち、適切なもの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 膵臓がんは、予後が不良であることが多い。
- B. 早期胃がんは、予後が不良であることが多い。
- C. 大腸がんは、食生活の変化とともに増加傾向にある。
- D. 肝細胞がんは、肝硬変に合併することは少ない。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 B D

問題 65: 正答 2○×○×

A.○膵臓がんは、進行が早く、きわめて予後が悪い難治とされるがんである。膵臓は腹部の奥深く後腹膜に位置して、一般的な検査では腫瘍が発見されにくく、膵臓がんと診断された時点で既に手遅れの場合が多いとされる。

B.×早期胃がんの予後は良好で、5 年生存率は約 90%である。がんが発生した粘膜だけか粘膜を少し越えているが粘膜下層までにとどまっているがんを早期胃がんとして定義されている。したがって、筋肉の層や腹膜にまで達しているがんは進行がんである。

C.○欧米型の食生活への変化(肉・脂肪・卵などの摂取増加)と大腸がんの死亡率の推移が関連していることが指摘されている。魚の油は逆にがん発生を抑制するといわれている。大腸がんは近年増加傾向にあるがんのひとつである。

D.×肝細胞がんのほとんどはウイルス性肝炎から発生し、C 型肝炎が 70～80%で最多で、次いで B 型

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

肝炎が 10%～20%と多い。肝細胞がんになる前に素地として肝硬変が存在することが多く、とくに C 型肝炎が原因の場合には、80%～90%が肝硬変に合併して発生するといわれる。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題66 次のうち、浮腫を主症状とする疾患に該当するものを一つ選びなさい。

1. パーキンソン病
2. ピック病
3. バセドウ病
4. ベーチェット病
5. ネフローゼ症候群

問題 66: 正答 5 × × × × ○

1. × パーキンソン病の 4 大症状は、①振戦(ふるえ)、②固縮(筋肉の緊張が強くなって体が固くなる)、③寡動(動作が鈍くなって動きが少なくなる)、④姿勢反射異常(姿勢の調節の反射が悪くなって倒れやすい)、である。
2. × ピック病は、大脳、とくに前頭葉と側頭葉が限局性に萎縮し、アルツハイマー病と同様の初老期に認知症をきたすが、症状は人格障害が前景に立つ。
3. × バセドウ病は、甲状腺腫大、頻脈、眼球突出が主症状である。
4. × ベーチェット病は、口腔粘膜のアフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、皮膚症状、眼症状の 4 症状を主症状とする慢性再発性の全身性炎症性疾患である。
5. ○ ネフローゼ症候群の主症状は浮腫(むくみ)である。ネフローゼ症候群とは、大量の蛋白尿が出て、それに伴って血液中の蛋白質が減少するため、浮腫、コレステロールなどの脂質の上昇などが現れる病気である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題67 心筋梗塞に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 冠動脈内に生じた血栓が主な原因である。
- B. 心臓の筋肉の一部が壊死する。
- C. ニトログリセリンで発作が治まる。
- D. 治療法の一つとして冠動脈バイパス術がある。

(組み合わせ)

A B C D

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- 1 ○ ○ ○ ×
 2 ○ ○ × ○
 3 ○ × × ○
 4 × ○ ○ ×
 5 × × ○ ○

問題 67: 正答 2○○×○

A.○心筋梗塞は、心臓に酸素と栄養を送る冠動脈が血栓などで急に閉塞する病気で、結果として心筋細胞の一部が壊死し、不整脈、心不全、ショックなどの合併症を生じる。通常、激しい痛みを伴い、心筋梗塞による死亡のうち 50%は 2 時間以内に起こるとされている。

B.○A の解説を参照のこと。

C.×設問は「心筋梗塞」ではなく「狭心症」の説明である。心筋梗塞は狭心症と異なり、ニトログリセリンでは、痛みがとれず、モルヒネなどの投与が必要になる。なお、狭心症の胸痛は、通常段々と痛みが増し、安静かニトログリセリン舌下などにより 10 分以内に治まることが多いが、15 分たっても治まらなかったり、ニトログリセリンでも効果がない場合には、心筋梗塞の危険があるとされる。

D.○冠動脈バイパス手術は、冠動脈の狭い部分には手をつけずに、身体の他の部分の血管を使って狭い血管の先にある正常な太さの冠動脈まで新しい血液の流れるバイパスを作製する手術で、冠動脈バイパスに用いる身体の他の部分のバイパス用血管(グラフト)は、足の静脈(大伏在静脈)、胸の骨の裏にある左右の内胸動脈、胃のそばにある右胃大網動脈、左右前腕の橈骨動脈などが使われる。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題68 糖尿病に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. インスリンの作用過剰に基づく代謝異常である。
 B. 合併症の一つに糖尿病性網膜症があり、失明することがある。
 C. 1型糖尿病は、高齢者に多い。
 D. 治療法には、食事療法、運動療法、薬物療法がある。

(組み合わせ)

- A B C D
 1 ○ ○ × ○
 2 ○ × ○ ×
 3 ○ × × ○

4 × ○ × ○

5 × × ○ ×

問題 68: 正答 4 × ○ × ○

●WHO によれば, 2000 年現在の世界の糖尿病患者数は 1 億 7,100 万人以上とされている。その内 90%が 2 型糖尿病, 10%が 1 型糖尿病である。日本の 2002 年「糖尿病実態調査」(厚生労働省)によれば, 「糖尿病が強く疑われる人」「糖尿病の可能性を否定できない人」を合わせると糖尿病患者および予備軍は約 1,620 万人にと推計されている。

A. × 糖尿病は, 「インスリン作用過剰」ではなく「インスリン作用不足」に基づく代謝異常である。

B. ○ 糖尿病の三大合併症は, 神経障害, 網膜症, 腎症である。合併症は, 糖尿病になるとただちに起こるわけではなく, 糖尿病になり高血糖を放置していると, 数年オーダーで徐々に起こってくるのが一般的である。糖尿病網膜症とは, 血糖のコントロールの悪い状態が続き, 眼底にある網膜の毛細血管がもろくなって冒される病気で, 現在では後天性の失明原因の第 1 位となっている。

C. × 「高齢者」ではなく「子ども」である。1 型糖尿病(インスリン依存型糖尿病)は, 小児期に起こることが多いため小児糖尿病とも呼ばれる。1 型糖尿病は, 生活習慣病ではなく, 先天性の病気でもなく, 遺伝で同じ家系の中で何人も発病することはまれといわれている。

D. ○ 糖尿病の治療法は, 基本となる食事療法, 運動療法で血糖値が十分に下がらない場合に補助的に薬物療法が開始される。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】